

KAS

Cotton こっとな Up あっぷ

Vol. 97



年末のお楽しみ！
毎年恒例の忘年会開催中！！
今年1年、お仕事お疲れ様でした！

目次

- ・横須賀たんぽぽの郷 15周年記念講演会レポート 《2ページ》
- ・「W・D・S・N 20 (Watage Daily Support News)」
～ 新しい仕事！いぶりっぎよ、始めました！編 《3～5ページ》
- ・おーい！ごとうくん 《6ページ》
- ・新任職員紹介 《6ページ》
- ・ものもらっくまるちもらっく 《7ページ》
- ・後援会のご案内 《8ページ》
- ・ボランティアさん☆大募集中！！ 《8ページ》
- ・編集後記（編集部） 《8ページ》

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会
代表 内田 照雄 〒243-0035 厚木市愛甲910-1コープ野村6-109
(毎月1回15日発行) 購読料1部 50円

横須賀たんぼぼの郷 15周年記念講演会レポート

竹内 祐輝

11月13日、晴天の日曜日、横須賀市総合福祉会館において、当法人の15周年記念講演会を開催しました。今回の講演では、通所施設『わたげ』『わたげ分場』、ケアホーム『こっとなはうす』において、開所から現在に至るまでを振り返りながら、どんな考え方で支援を行ってきたかということを実践報告という形でご来場の皆様にお伝えしました。理事長 佐藤哲也からの「福祉は人なり」という考えを根底に持って運営に取り組んできたという挨拶に始まり、その後、現場で直接支援を行っている2名の職員が、担当する施設について報告しました。



(わたげの支援についての発表)

「必要とする人に、必要とする場で、必要なサービスを」を基本方針に、自分の意志で利用者が行動することを大切に、その人の力を信じてささえるという姿勢で、支援を行ってきたことを報告しました。内容としては、ケーブルから銅線を取り出す作業やお菓子のタグ付け作業などの受注した仕事や浴場清掃や燻製魚の梱包など地域での活動、また、施設でできた活動を家庭に伺って引き継ぐ支援などについての発表をしました。作業方法や一日の過ごし方などを、自閉症の特性に合わせ、写真や文字を用いることで視覚的にわかりやすいように工夫していること、一人一人の利用者に合わせて、それぞれが最も理解しやすい形で支援を提供していることなど、支援の基本としている点についてお伝えしました。



(こっとなはうすの支援についての発表)

『つなげていく、つながっていく』というテーマでの発表でした。集団で暮らすことを大切にするのではなく、利用者それぞれの安心した生活を大切に、ご本人らしい生活をサポートすること、こっとなはうすで得た経験やスキルを自宅または地域へ『つなげていく』ことが、将来の生活へ『つながっていく』。この取り組みが、利用者が豊かな人生を送ることにつながると考えていることをお伝えしました。

講演後、ある利用者のご家族の方から感想を伺いました。「『利用者それぞれに合わせて、個々に必要な支援を行っていく』という意識が開所からブレないことがすごい。今後もより良い支援を期待している」と笑顔でおっしゃっていただきました。

今回の講演会は、我々職員にとっても、利用者の方へさらに良い支援を行っていきたいという、自分たちの意識を再確認する機会となりました。また、たくさんの方が我々の支援に期待して下さっていることに気づき、更に頑張らなければという思いを強く抱きました。今後も利用者の方により充実した人生を送って頂けるよう、支援していきます。

「W・D・S・N 20(Watage Daily Support News)」

～新しい仕事！いぶりっぎょ、始めました編～

山中 恵子

海の街、横須賀で魚屋「魚源」を営んでいた「源さん」こと筑摩さん。現在、横須賀魚市場発の燻製商品「いぶりっぎょ」を作っています。ひよんなことから、源さんとわたげ職員が知り合い、「魚市場でアルバイトをしない？」と声を掛けてもらったことがきっかけでした。それだったらぜひ！と、わたげの話をしました。すると源さんも、以前から、障害を持つ人と何かできないか、と考えていたとのこと。そこから、横須賀魚市場での仕事が始まったのです。

<まずは下見から>

魚市場に出向いての仕事ということで、わたげとは環境が大きく変わります。まずは職員が下見をし、実際に仕事を体験しました。①袋にシールを貼る②袋に燻製商品を詰める③専用の機械を使って真空パックにする、という流れです。シール貼りは、他の仕事でも経験があり、わたげには得意な人がたくさんいます。袋詰めは、詰める数や重さが明確に決まっているので、仕事として分かりやすく、自閉症を伴うわたげの利用者の方にぴったりの仕事なのではないか、と嬉しくなり、期待がふくらみました。その反面、天井が高く広い空間、水気が多い床、というわたげとは全く違う環境に、少し不安も残りました。

<いよいよ始動！>



初回に参加した飯野さん。前日に、下見の時に撮影したビデオで魚市場の様子や、仕事の流れを見てもらいました。新しい仕事に挑戦するかどうか確認すると「やります」との返答。「期待していますよ」と伝えました。

当日。飯野さんは、わたげでの工作中、イヤホンでラジオを聞いています。魚市場に向かう車内でも、イヤホンを着けていました。しかし、魚市場の駐車場に到着すると、自分からラジオを車内に置いて市場に向かいました。

魚市場が賑わうのは早朝。わたげチームが仕事を始める10時頃には、既にガランと静かな状況です。その一角の作業台で、「いぶりっぎょ」の仕事が始まりました。各工程で、源さんがやり方を簡潔に教えてくれます。携帯ラジオを車に置いてきた飯野さん。源さんの声に真剣な表情で耳を傾け、指示を聞いている姿が印象的でした。笑顔ながら、わたげでの飯野さんの表情とは少し違い、程よい緊張感も感じられました。

<いぶりっぎょ袋詰め3工程>

①シール貼り

効率的に進めるため、まずは袋を机一面に並べます。そこに、ラベルシール、バーコードシールを貼っていきます。見本や、貼る位置にマークを付けた補助シートなど、その人に合わせて、シールを貼る位置を伝えています。



②燻製袋詰め

決まった数を袋に入れる商品と、重さを計って入れる商品があります。例えば、うるめいわしは6匹を1つの袋に入れます。上向きが3匹、下向きが3匹と、袋に入れる向きも決まっています。目で見て理解することが得意なわたげチーム。見本を見ながら入れ方を確認し、正確に詰めています。

計量をする商品には、例えばイカゲソがあります。20gから22gの間という指示がありました。「20、21、22→OK」というメモをデジタル計量器の隅に貼り、具体的にグラム数を伝えました。最初は、23gでも入れようとする場面もありました。メモと数値と一緒に確認しました。回数を重ねる中で数値への意識が高くなり、今では小さくて軽そうなゲソを選んで微調整できるようになりました。

③真空パック

機械の大きなフタを開け、完成品を縦と横に並べて留め具をかけます。フタを閉めると自動的に空気が抜かれ真空になります。1分位で出来上がり。自動的にフタが開きます。



<新メンバーぞくぞく登場>

2人目のメンバーは、坂口さんです。普段わたげでは、仕事のペースを掴んでもらうため、タイムログという電子版の砂時計を使っています。この時間内に、これだけの仕事量を期待しています、と目で見て分かる形で具体的に伝えることで、ペースがグッと上がった経緯がありました。今回、魚市場でもタイムログを使用するか、職員は迷いました。新しい場所での仕事なので、まずはまっさらな状態でやってもらおう、と決めました。魚市場初日。職員の迷いなど吹き飛ばすペースで、次々とシールを貼っている姿がありました。

イカゲソの袋詰めをした時に、計量しながらゲソを折っていることがありました。ゲソの長さはまちまちです。長さを揃えるためか、長いものを選んで折っていました。「イカは折りません。長くても袋に入ります。大丈夫です。」とメモを添えて伝えました。それからは、長さが違っていても、気にせずに袋に詰めることができました。

10月から、小宮さんが新たなメンバーとして加わりました。初日に、袋詰めする商品が多量にあり、時間を30分延長することになりました。それを仕事の途中で伝えると、最初は「はい」との返事でしたが、数分後、不安な様子になる場面がありました。それでも、全てやり終え、わたげに戻りました。1回目が嫌な経験で終わっていたら、2回目は参加してくれないかもしれない。そんな不安がありました。2回目。前日に予定を伝えると、「はい」との返事。当日、自分のペースで、丁寧に淡々と仕事を進めていました。そして、全て終わった後に、職員に向かって「合格」と、力強い口調で一言。満足そうな表情でした。わたげチームに頼もしいメンバーが増えたのでした。

<あうんの呼吸で真空パック>

シール貼りや袋詰めでは、それぞれのペースで、1人で完結して仕事をしてしていますが、最後の真空パックの工程では、2人でペアを組んで仕事をする場面があります。1人が機械に袋詰めした商品を並べて、押さえの金具で留め、フタをします。1分程待ち、真空になった完成品を、もう1人が取り込む、という流れです。最初はお互いの動きをそれぞれが見届けていて、ぎこちない流れ作業でした。

お互い言葉でのやりとりはありませんが、回数を重ねる中で、途中から相手の工程は相手に任せて、自分の工程が終わったら、次の準備をするようになっていました。

自閉症の人は、相手に合わせることが苦手、というイメージがあるのではないのでしょうか。特に職員が指示をした訳ではありません。お互いの動きを意識して、相手の工程は相手に任せることで、スムーズに効率良く仕事を進めることができるようになっていました。それは、まさに「あうんの呼吸」でした。

<大漁日に決まる仕事の予定>

魚市場での仕事は、魚が相手。いつ仕事が入るか分かりません。大量に魚が揚がった時に、源さんから電話が入ります。始めるまでは、自閉症の人にとって、見通しが持ち難い仕事は合っていないのではないかと、という不安がありました。しかし、実際に始めてみると、前日に伝えて、翌日には魚市場の準備をしっかりとわたげに通所しています。やはり、次の仕事はいつなのか確認があります。魚が捕れたら、とお伝えするしかありません。これまでのデータから、次の仕事日を予測して職員に聞いてくる人もいます。しかし、不安というよりは、楽しみに待っている感じがあります。とにかく、仕事が決まったらすぐにお知らせします、と伝えていきます。

魚市場での仕事は、わたげでの仕事とは違う緊張感があります。三浦半島ならではの魚市場の仕事。魚市場から戻ったメンバーからは、ほんのり燻製の香りがします。懐深い横須賀魚市場、源さんに感謝です。これからも長く継続して仕事をできたら、と願います。

横須賀魚市場発「いぶりっぎょ」とは？

三浦半島で捕れた魚を、新鮮そのまま、干して旨みをギュッと凝縮、スモークして豊かな香りをまとい、なんとも深い味わいに。防腐剤、保存料は一切使っていません。栄養たっぷり、お手頃価格。横須賀魚市場発の燻製商品です。



源さん

いぶりっぎょを作るきっかけは、横須賀魚市場の府川社長から受けた相談でした。ここ30年の間に、魚が食卓から遠のき、小売りの形も量販店が主になりました。小さな魚（うるめいわし、きびなど）が規格外としてはじかれ、物流しづらくなった魚が増え続けています。そんな状況で、何かいいアイデアはないか、と魚市場営業部長と話し合いました。魚を干して新鮮なうちに乾燥させることで水分を取り、程よく燻製することで香りを付けて保存を利かせ、真空パックにした商品を作れば、手軽にそのまま美味しく食べることができ、魚が食卓に上がる機会が増えるのではないかと、そんな思いで、いぶりっぎょの商品開発を始めました。試行を重ね、去年の8月から製造販売に至っています。

♪いぶりっぎょの購入はこちら♪

横須賀のアンテナショップ「横須賀海軍カレー本舗」

おすすめは、お得な3000円のおまかせセット（セット例：するめいか、うるめいわし、茎わかめ、サバ、タコ、金目鯛、かますの魚卵）。単品でも販売しています。詳しくは、「横須賀海軍カレー本舗」にお問い合わせ下さい。電話、ファックスでも注文できます。

電話：046-829-1221

FAX：046-829-1220

◎ 新任紹介 ◎

初めまして。12月1日から、非常勤としてお手伝いさせて頂いている新田房枝と申します。以前も知的障害者施設で働いた経験があります。今回の就活にあたっては、高齢福祉も視野に入れていたのですが、やはり障害の方になりました。これも何かの縁かなと思います。

趣味は旅行やダイビング、映画鑑賞ってところでしょうか。なので、必然的に旅行はダイビングの出来る南国になっちゃいますね。ガイドブックを沢山持っているので、南国に旅行の際は、お声をかけて頂ければ、何かお役に立てるかも知れません。

現在、すでに半月程、お手伝いをさせて頂いてますが、先輩職員方の支援が確立されているおかげか利用者の皆さんが思った以上に落ち着いて仕事に励んでいる姿には驚きました。私もまだまだ自閉症については勉強中ですが、私を含め、皆さんが日々成長していける様に努力していく所存ですので、どうぞ宜しくお願い致します。



『お～い、ごとーくーん！！』

わたげ 施設長 後藤博行

今年も残すところ、あと2週間になりました。3月には震災があり、それ以来、いつも心の片隅に不安な気持ちや焦りにも似たような感覚を感じながら、過ごしてきたように思います。震災によって、大きな被害を受けた方々は、一層複雑な気持ちを抱えていらっしゃると思います。

私には、元気がでない時、パラリとめくる本があります。画家の岡本太郎氏が残した言葉を集めた「強く生きる言葉」がそれです。偶然にも、同じ川崎市出身なのですが、画に特に惹かれていた訳でもなく、何となく数年前に手にとって見たときに、氏の言葉に元気づけられるような感覚があり、買ったのです。『こんなに弱い、なら弱いまま、ありのままに進めば逆に勇気が出てくるじゃないか。もっと平気で、自分自身と対決するんだよ。』『よく、あなたは才能があるから、岡本太郎だからやれるので、凡人にはむずかしいという人がいる。そんなことはウソだ。やろうとしないから、やれないんだ。それだけのことだ。』。 “そうか、弱いままでいいのか” “やろうとしてない、それだけのことか” 頭ばかり重くなっている、自分自身に気づく。

来年は、どんな年にしたいですか。『気まぐれでも、何でもかまわない。ふと惹かれるものがあつたら、計画性を考えないで、パッと、何でもいいから、そのときやりたいことに手を出してみるといい。不思議なもので、自分が求めているときには、それにこたえてくれるものが自然にわかるものだ。』。さまざまなお会いに期待を込めて、新年を迎えたいと思います。来年もどうぞよろしく宜しくお願い致します。

たんぽぽ・ヨコスカ

ものどらっくまるちどらっく

No.48

このコーナーでは毎月「横須賀たんぽぽの郷」最新ニュースをトピックスでお伝えして行きます。今回は、前号ではページ数の都合でご紹介出来なかったトピックスも含めてご報告します！

篁一誠先生 ケース会議について

10月21日(金)、篁一誠先生(PDDサポートセンターグリーンフォーレスト)に、三浦市にあるわたげ分場に来所頂き、ケース会議を行いました。

講義は、「支援について」というテーマで、その人にどのように寄り添うのか、よりよい生活、豊かな生活とはなんだろうかというところから、利用者への配慮、援助者のチームワークのあり方など幅広いお話でした。その中で、自閉症を伴う方に言葉かけをした時に、相手に伝わらなかった時に、別の言葉に置き換えて伝え直すというお話がありました。ある方に、「責任を持ってやって下さい」と声をかけたが伝わらなかった。その時、「一人で最後までやって下さい」と伝え直したところ、言葉の内容を理解し、その通りに行動する事が出来たという事例がありました。先生は、「支援者であるみなさんには、自閉症語の通訳者になってほしい」とおっしゃいました。

理解しやすい言葉、納得しやすい言葉とは、個々で異なるものだと思います。通訳者になるには、その方の生育歴、生活環境、嗜好などを知らなくてはなりません。そしてその方の気持ちを敏感に、丁寧に受け止める力と姿勢が求められます。自閉症語を話せる支援者として、利用者やご家族から信頼されるよう、日々の支援を行なっていきたいと思っています。

広瀬宏之先生 ケース会議について

10月7日(金)に広瀬宏之先生(横須賀市療育相談センター)に、わたげに来所頂き、ケース会議を行いました。

職員が、あるケースの、自分自身や他者を叩こうとする行動の軽減に取り組んでいるというお話をしたところ、そもそも「叩く」という行為は、リラックスに繋がる行動であると先生はおっしゃいました。リラックスするのに大事な事は、力を入れること。伸びをする時のことを考えると分かると思うが、力を入れていっぱい伸ばして力を抜く。深呼吸も吸って吸って吐く。同じように、力を入れて叩くことで、その後自然に力が抜けているのだと思う。また、それぞれにとって1番リラックスできる方法というのは、1~3歳位の時に、誰からも教えてもらわないのにやっていたこと。その馴染みのある行動が、このケースには「叩く」という行為であるならば、それを生活に支障のない行動に少しずつ変えていけると良いというお話でした。

なぜその行動を起こしたのだろうと行動の背景を考える時に、例えば意にそぐわないことがあった等、行動のきっかけとなるものを探り対応するとともに、行動自体の理由を探ることで、叩くことがリラックスに繋がるのであれば、自分ではなくクッションを叩くことを提案してみよう等、様々な面からの支援を展開できることを学びました。

健康管理講演会について

10月7日(金)親の会に、横須賀市保健所の職員を招き、生活習慣や健康管理についてのお話をしていただき、一部の職員とともに学びました。

オンブズマン来所について

10月12日(水)、オンブズマン2名がわたげに来所しました。施設長や協力員の職員と懇談し、頂いたご意見や感想をもとに、更に良い支援を利用者の皆様に提供できるよう努めて参ります。

